

野島正也先生のご退職にあたって

人間科学部人間科学科長 宮田 浩二

野島正也教授が、平成29年3月をもって定年退職されます。

立正女子大学から文教大学に校名が変更され、男女共学になった昭和52年4月、先生は人間科学部人間科学科の専任教員として赴任されました。赴任されて以来、文教大学で36年間に渡って教鞭をとられました。また、学長として4年間、大学のトップとして、ご尽力されました。先生は、赴任当初を振り返り、「こんなに恵まれた環境で教壇に立てるなんて、まずないことだと思います」と想いは格別であるとおっしゃっています。

人間科学部では、社会教育を中心として研究を深められるとともに、生涯学習論、教育環境学、ライフプランニングなどの授業を通して、その成果を学生に熱心に伝えられました。

野島先生は、新潟県で生まれ、東京へ来られました。そのまま高校まで進学され、高校卒業後、自動車部品工場に就職されました。工場で体験した実社会の厳しさは、先生の前風景になったとっておられます。その経験が先生のもの考え方や感じ方に大きな影響を及ぼすことになり、さらに学びを深めるため、故郷の新潟大学に進まれました。社会教育学を専攻し、卒業後は十日町市で中学校の技術科教師となられましたが、「もっと幅のある領域を学び、社会的に広がりしたい」と、東京教育大学大学院に進学され、教育社会学の研究に没頭されました。

以下では、私が先生の警咳に接した15年間を振り返って、思うことを記させていただきます。

私が文教大学に赴任した当時、人間教育コースに配属されました。そこには、野島先生をはじめ、佐藤啓子先生、角田巖先生がおられ、新米の力不足の私は、大先輩に囲まれながら自由な雰囲気の中で、ご指導して頂きました。

その頃は、8号館の4階に研究室がありました。先生は会うといつものにこやかに挨拶をして下さいました。その当時、教授会は図書館の半地下の会議室で行なわれていましたが、席が隣だったことが多かったと記憶しています。いつも膝掛け（ANAの紺色のブランケット）をされ、腕組みをして、静かに目をとじ、なにか考えに耽っているご様子でした。今思えば、これからの文教大学のことをお考えになって、ロマン飛行されていたのでしょうか。

平成20年、人間科学部の教員は、揃って新しい校舎（12号館）に移りました。たまたに研究室に伺うと、先生の好物のコーラをご馳走になりました。休日は、趣味で家庭菜園をなさっているとのことでしたが、「なかなか休みがなくて、今は野菜ではなく草が大収穫です」など朗らかな表情に輪をかけた笑顔で話をされていました。

学生にも親しみやすい先生で、良くゼミコンパにも参加されていました。しかし問題意識は高く、最

近学生が社会常識を知らずに大人同様の生活を送っていることを懸念し、「地域に密着した大学を作ることで、地元の人々が色々教えてくれる機会を増やしたい」と熱く語って下さいました。

研究者として先生の研究活動の成果は、膨大なものです。一貫して、社会教育の領域での造詣が深く、究明されています。特に教育社会学の視点から、研究対象を狭く授業場面や学校教育に限定せず、学校外の教育をも含む幅広い様々な教育事象を研究対象として研究されてきました。例えば、家庭教育におけるしつけ、学校の授業における教師と子どもの関係、社会教育施設としての図書館や博物館など、個々の教育事象を取りあげられています。「現地で地域の人の話を聞くことから始まる」と現場第一主義を貫かれ、「直接対話を大切に」と学生や私たち教員に常々語っておられます。

社会活動としては、内閣府統計委員会専門委員、文部科学省統計分析アドバイザー、国立教育政策研究所客員研究員、埼玉県生涯学習審議会会長、埼玉県社会教育委員会議長など、数多くの要職を歴任され、社会に大きく貢献されました。

ところで、大学教員は、教育、研究、社会活動に並んで校務の分掌も大きな責務です。先生は、大学院人間科学研究科長、人間科学部長、生涯学習センター長、入学センター長、副学長等を歴任され、4年前から学長に就任されました。就任に併せ、自身がモデルの大学のPRキャラクター『のじのじくん』も完成し、「時代は変わりましたね」と言われたことが印象に残っています。学長に就任されたため、授業の担当は無くなり、私がライフプランニング論（現：ウエルネスライフ論）を引き継ぎました。その初年度、2回に渡り授業でお話をいただきました。先生の著書にもなってる『いきいきマイライフー 定年後の生活設計』（文教大学出版事業部）でした。「文教大学で授業をやるのもこれが最後です」と穏やかに学生たちに話すその表情は、正にキャラクターそのものでした。ジョークを交えながら、まさしく、「授業は、いきもの」、「授業は、学生と教員がつくるもの」という先生のお考えにふさわしく、『文教の教育力の基礎は授業力』のお手本となる授業であり、大変感銘を受けました。

また、先生は、今年度の6月から、文教大学学園の理事長にも就任され、重職を担われています。この40年間、教育、研究、校務、社会貢献等のすべてにわたって、最高の水準でお仕事をされてきました。先生は、文教大学が擁する教育力と研究力を十分に生かして、有為な人材の育成や地域社会への貢献など、大学に求められている社会的責任をしっかりと果していきたいと考えられ、実践されてこられました。これからは、心の赴くままに自らのユメの実現を果たして頂きたいと念じております。大学は、まさに今、改革と競争の時代に突入しています。これからもどうぞ、ご指導の程、よろしくお願い致します。